

平成26年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	雨よけ夏秋どり栽培における橙系ミニトマトの品種特性
[要約] 橙系ミニトマトの雨よけ夏秋どり栽培では、「オレンジキャロル」の収量性が高く、「ピッコラカナリア」は糖度や外観に優れる。			
キーワード	糖度	良食味	技術部野菜花き研究室

1 背景とねらい

本県の中山間地域では中小規模の農地が点在し、施設の拡大が困難な地域も多い。このため、集約的かつ収益性の高い品目の導入が必要であり、施設と露地圃場を複合的に活用した営農モデルにより高収益を実現する必要がある。また、少量生産地で収益性を高めていくためには、産地の優位性を獲得する必要があることから、既存産地が少なく食味に優れる橙系ミニトマトの品種特性を明らかにする。

2 成果の内容

- (1) 「オレンジキャロル」は花房あたり開花数が多く、収量性に優れる(表1、図)。また、果実糖度は高いが、時期により低下する(表2)。
- (2) 「ピッコラカナリア」は花房あたり開花数が少なく、収量性は劣るが(表1、図)、収穫期間を通じて果実糖度は高い(表2)。
- (3) 「ピッコラカナリア」の果実表面色は濃橙色であり、「オレンジキャロル」と外観で明確に見分けることができる(表3、写真)。

3 成果活用上の留意事項

- (1) この成果は、ロックウールを用いた養液栽培により得られた成果である。
- (2) 本試験では、各花房とも放任とし果数制限は行っていない。
- (3) 供試品種はいずれも青枯病、葉かび病および斑点病に罹病性であるため、必要に応じて対策を講じる必要がある。

4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯または対象者等
県内全域
- (2) 期待する活用効果
付加価値の高いミニトマト生産のための品種選定に活用される

5 当該事項に係る試験研究課題

(H25-12)食料生産地域再生のための先端技術展開事業「ブランド化を促進する野菜の生産・加工技術の実証研究」(H25, 26 国庫委託)

6 研究担当者

藤尾 拓也

7 参考資料・文献

無し

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 生育特性と果実収量の品種間差異（2013～2014年）

年次	品種	草丈	節間長	平均開花数	最終花房 段位	規格別果実収量 (kg/10a)				良果平均 一果重 (g/果)
		cm	cm	花/段	段	良果	格外	障害果	総収量	
2013	ピッコラカナリア	467 ab	8.6 a	18.2 b	15.5 ab	3,826	709	829	5,362	10.7
	オレンジチャーム	445 bc	8.3 a	21.7 b	15.0 b	4,140	395	1,412	5,945	12.3
	オレンジハルチェ	426 c	7.2 b	14.0 b	17.3 a	4,816	415	1,070	6,299	13.3
	オレンジキャロル	489 a	8.8 a	30.6 a	15.6 ab	5,652	700	636	6,986	10.9
2014	ピッコラカナリア	—	—	—	—	3,197	394	625	4,216	12.0
	オレンジキャロル	—	—	—	—	3,877	690	1,259	5,770	11.0

※ 生育調査(2013年)：異なるアルファベット間には Tukey-Kramer 法により有意(n=8,p<0.05)

※ 耕種概要 栽培期間:2013年 5/10~10/20, 2014年 5/7~9/20、1区10株2反復

培地:godanExpart., 培養液:タンクミックス A&B(EC0.6~2.0dS/m), 仕立て法:主枝1本仕立

表2 雨よけ夏秋栽培での橙系ミニトマトの糖度推移(2013~2014年)

品種	果実 Brix(%)									
	2013年					2014年				
	8/8	8/21	9/12	10/15	計	7/24	7/31	8/27	9/4	計
ピッコラカナリア	9.3 a	10.1 a	8.5 a	7.8 a	8.9±1.0 a	8.9	9.1	9.1	8.7	8.9±0.7
オレンジチャーム	8.2 b	9.4 b	7.8 ab	7.5 b	8.2±0.9 b	—	—	—	—	—
オレンジハルチェ	7.5 b	8.4 c	7.6 b	6.9 b	7.6±0.7 c	—	—	—	—	—
オレンジキャロル	9.5 a	9.1 b	7.8 b	7.6 a	8.5±1.0 ab	8.1	9.6	8.3	8.4	8.5±0.7
	T-test					**	*	**	n.s.	***

※表中の太字は最大値、2013年の異なる記号間には Tukey-Kramer 法により有意(n=40,p<0.05)、2014年は t 検定により * p<0.05, ** p<0.01, *** p<0.001 で有意を示す。

表3 果実表面の色彩色差の品種間差 (L*a*b 表色系、2014年)

	色彩 (L*a*b 表色系)			色差 ΔE*ab (B)との色差	外観色
	L	a	b		
ピッコラカナリア(A)	42.1±3.2	8.5±2.5	37.5±6.8	2.9	濃橙
オレンジキャロル(B)	41.2±3.2	5.9±2.0	36.7±7.9	—	橙

※ n=40, 色差 ΔE*ab=1.5~3.0 は、感覚的表現として「感知し得るほど異なる(noticable)」程度であると定義される。

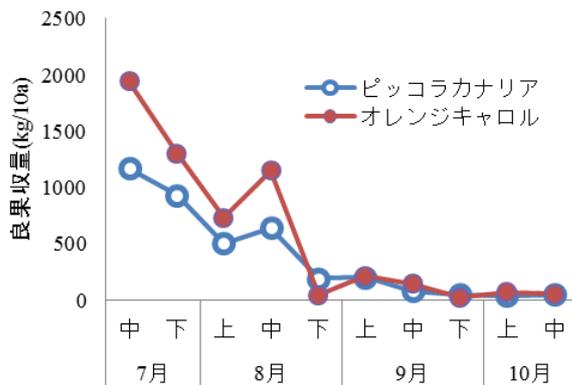


図 旬別良果収量(2013年)



写真 果実外観
上段：ピッコラカナリア
下段：オレンジキャロル